

本日は臨時休業とします。

～中学生の未来は・・～

1月 22 日 (木)

昨日より丹波市に警報(大雪)が発表されていますので、通学路の確保や今後も警戒が必要なことから、今日 1月 22 日 (木) は臨時休業とします。お世話になりますがよろしくお願ひいたします。



話は変わりますが、この半世紀で科学は凄まじい進歩をとげ、アニメや SF の世界が現実のものとなっていました。今の中・高校学生がちょうど働き盛りを迎えるのが、2030～2040 年頃です。あと 10～20 年後のことです。その頃の日本、そして世界はどのような時代を迎えていくのでしょうか。今から 10 年前の 2016 年、当時の文部科学大臣が示したある文書が話題となりました。国の教育のあり方を考える「中央教育審議会（中教審）」という会議で示されたもので、以下のような言葉で始まっています。

～ここから～ 「今の子供たちやこれから誕生する子供たちが成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えると予想されます。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、子供が就くことになる職業の在り方についても、現在とは様変わりすることになるだろうと指摘されています」 実はこの文書、2020 年以降の「学習指導要領」について、中教審に検討するよう指示したときの「諮問文」です。ここまで未来をシビアに表現したのは珍しいことです。それでは「厳しい挑戦の時代」とは、いったいどういう時代を意味しているのでしょうか。

①日本では働き手が減少、世界はアフリカの時代へ

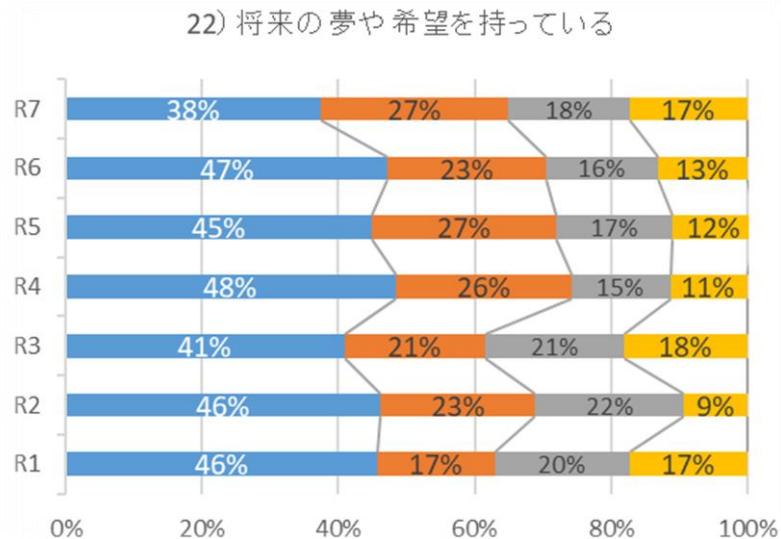
②A I が人間の能力を超え、労働人口の 49%が機械に置き換わるか？

今の中学生が大人になる頃、直面するのはグローバル化だけではありません。実は科学技術の側面からいえば、今の中学生が 40 代になる 2050 年頃には人工知能が人間の能力を超えるシンギュラリティ（技術的特異点）に到達するといわれています。機械にはできない、人間ならではのアイディアや創造性をどう発揮していくか？ 未来の社会で問われる力は様変わりしているでしょう。 （※除雪作業風景）



本日は、生徒アンケートの中から「将来の夢や希望を持っている」「自分にはよいところがある」について載せていました。

- ① 将来の夢や希望を持っている割合は65%(昨年度は70%)でした。(なりたい自分とは)



- ② 自分にはよいところがあると思う割合は89%(昨年度は82%)でした。
(自己肯定感とは)

